

マナー集

健康麻雀は賭けない麻雀ですから、その分和気藹々と楽しくゲームすることが要求されます。

その為には、みんなが共通のルールを守り、常識的なマナーを守ることで、より楽しくゲームが出来るのではないのでしょうか。

当協会では、これだけは守っていただきたいというマナーをまとめました。

順不同ですが**太字は「マナー」ではなく、限りなく「ルール」に近いとお考えください。**

○「先ツモ」「牌の強打」「歌を口ずさむ」「大声を出す・笑う」は絶対にしないでください。

○河に捨てた牌は、必ず6牌で折り返してください。

○牌がセットされたら、自分の前の牌山を少し前に出すと同時に右側だけをさらに前に出して斜めにしましょう。

○私語はなるべく慎みましょう。

○他家の打ち方の批判は厳に謹んでください。

○麻雀は適度なリズム・テンポで打つことが大事です。「適度なスピードで打つ」ことを心掛けてください。

○牌山(ヤマ)からツモってきた必要牌は、すぐ中に入れないで右端に置き、不要牌を切ってから中に入れるクセをつけてください。

○半荘2回ごとに場所変えをしたら、まず最初に「宜しく申し上げます。」と唱和してから親がサイコロを振るようにしましょう。

○親がサイコロを振って出た目に当たった人は、右から数えて「割れ目」を入れるのが日頃の慣例となっていますが、これは本来サイコロを振った親がやるべき仕事なのです。よって「早く数えろよ」と言わんばかりに平然と構えて待っている親がいますが、これは間違いです。慣例に従って「割れ目」をいれてもらった場合は「すみません」「ありがとう」の気持ちをお忘れなく。

- 割れ目に当たった人は早めにドラを表示し、嶺上牌(リョウシャンハイ)を左側に下ろしましょう。
- リーチ・ロン・ポン・チー・カン・ツモは皆に分かるようにハッキリと発声しましょう。特に最近無言でロン・上家のポン・チーをする人を時々見かけますが厳禁です。少し慣れてきた中級者に多いようです。
- 「ロン」の時、当たり牌や振り込んだ人を指差すことはやめてください。
- ゲーム中は自分の手牌を手前に伏せてはいけません。例えリーチをかけていても。**
- リーチをかけてあがった場合、裏ドラは必ず自分で見るようにしましょう。**
- 暗カンは「カン」と発声したあと、4枚を倒して全員に見せたあと両側の牌を裏返して右端に置いてください。
- 捨て牌が河に着いた時点で、その牌を捨てたと判断します。(たとえまだ手から離れていなくても) ですから一旦捨てたと判断された牌を取り替えることは出来ません。
- 流局した場合、聴牌(テンパイ)している人だけが手牌を前に倒して皆に確認してもらうこと。ノーテンの人は必ず手前に伏せてください。
- 他家があがった場合、まだ点棒の清算が終わっていないうちから「ねえねえ見て！ 私こんなすごい手だったの」と説明会をする人がいますが、あがった人に失礼です。いつの場合でもあがった時以外は自分の手の中を見せることはやめましょう。
- 点棒のやり取りは「手渡し」を禁じています。卓の外側部分の空きスペースに投げないで丁寧に置いてください。
- 裏ドラは表ドラと並べて常に全員が見えるように置いて翻数を数えてください。
- あがり牌をツモってきて自分の手牌(13牌の列)よりも前に置いて「ツモあがり」を宣言してもツモは認められません。何故なら河に捨てた牌と見なされるからです。必ず手牌の右側か、その線よりも手前に置いてツモを宣言してください。**

○リーチは①「リーチ」と発声 ②「打牌の横向け」 ③「リーチ棒の供託」の順が正式です。本来どれ1つ欠けてもリーチは成立しませんが特に①と②はリーチ成立の必須条件です。

○リーチをかけた人の捨て牌を見て「待ち」を予測するような言動はなるべく避けてください。他家には結果的に誤解を招く情報だったとして迷惑な場合があります。

○半荘が終ると点数計算をしますが、その際はすべての点棒を前に出し、皆が見えるところで数えてください。点棒箱の中で数え、結果だけを口頭で申告することはやめましょう。

以上、順不同で列挙しましたが、お互いにマナーを重視し楽しい麻雀が打てるようにしましょう。